

## Not cool, but...

私の留学はとても良いとはいえない始まり方でした。ハリケーンの影響で飛行機がキャンセルされてしまいシカゴの空港で深夜に1人きりで取り残されるわ、空港では荷物が見つからないわ…。スタートからのあまりの不運さに、これから先に待ち構えている1年間への不安が膨らむばかりでした。やっと目的地の空港に辿り着いて見たものは、“Chiho Naruse”と私の名前が書かれた紙を持って微笑むホストファザーの姿。日本を出てからのいものトラブルばかりだった私は、その笑顔を見てようやく少し肩の力を抜くことが出来ました。

到着後は会うもの全てが新鮮で興味深く、少しでも何か吸収しよう、学校で多くの人に受け入れてもらおうと、気を張る日が続きました。しかし英語をほとんどうまく話せない状況ではそれも難しく、段々と笑顔を保つことも出来なくなってきました。当たり前だった日本での日々が恋しくて、授業中に泣きそうになることもありました。それでも家に帰るといつもホストファミリーがいて、私のお粗末な英語でも理解してちゃんと答えてくれ、一緒にテレビを見ながらジョークで私をリラックスさせてくれました。

数ヶ月が経った頃、無理をするのをやめることにしました。出発前の理想のように、きらきらした1年でなくてもいい、手の届くところにあるちょっとしたものを大事にしていこうと。みんなにカッコイイといわれる留学生にはなれないけれど、家族や友達私のことを見てくれている。そうして気が付いたら留学生活も終わろうとしていて、また自然と笑えるようになっていました。理想どおりではなかったけど、この1年いろんなことを体験しているんな人と会えて、最終的には「幸せ」といえる時間が送れました。それもあの空港で会ったときからずっと私を支えてくれたホストファミリーのおかげです。もちろん日本から支え続けてくれた人達にも、みんなにありがとうを言いたいです。

